

今年もよろしくお願ひします 復興への新たな挑戦を



ふるさとネット役員
一同（前列右から佐
藤、酒井、後列右か
ら大坊、伊藤

新年あけましておめでとうございます。旧年中は大変お世話になりました。誠にありがとうございます。本年もまた倍旧のご協力を賜りますようお願い申し上げます。（三宅島ふるさと再生ネットワーク世話人一同）

三宅島民は、このこと誇りを持って今年も頑張っていきたい。また多くの国民が私たちが忘れずに支援を惜しまないでいます。本年

攻めの政策転換で
09年を希望の年に

会長 佐藤就之

三宅島新報

隔月発行

発行所：三宅島ふるさと
再生ネットワーク
（本部）〒100-1101
東京都三宅島三宅村神着 320-2
Tel. 090-4922-0798
発行人：会長 佐藤就之

事務局便り

○第14回世話人会開催
日時：1月15日（木）
18:30～20:30
場所：喫茶ルノアール
会議室（巣鴨駅前店）
みな様のご参加お待ちしております。

○アンケートのご協力ありがとうございました。今後もお宅訪問や電話相談をいたします。事務局までご連絡ください。

○ご寄付のお願い
ご協力感謝いたします。

郵便振替口座
口座番号：00120-3-545036
口座名称：三宅島ふるさと
再生ネットワーク

事務局住所
〒173-0005 板橋区仲宿 25-6
あすなろ保育園内
電話・FAX 03(3963)5697
担当 伊藤奈穂子事務局長

協力に感謝

ネット発足から4年

副会長 酒井 一豊

大坊千代子

事務局長 伊藤奈穂子

噴火から8年、避難解除から5年が経ち、長きにわたり皆さまそれぞれ

の緊急の課題は、「帰りとくても帰れない在京者と高濃度地区住民の救済なくして三宅島の再生・復興なし」。その真実を平野村長と村会議員の諸氏は気づき政策転換をすることです。

政策のポイントは、火山ガスに対する島民の体験に基づく攻めの安全・生活・産業施策確立です。島のリーダーには、この気概と判断が必要です。今年こそ希望の年に：

ご寄付のお礼 申し上げます

前号に続き新報読者から沢山のご寄付を頂きました。心から御礼を申し上げます。

また11月15日のチャリティイベント「がんばれ三宅島」（主催DIスマイル・共催鶴吉プロダクション他）と参加者からもご寄付を頂いたことを謹んでご報告を致します。ありがとうございます。

【ご寄付者名】

（10月14日～12月2日）

広瀬佐和様、小曾寿美子様、倉持房枝様、坂本健様、小原武弘様、飛鳥舘子様、孔雀連様、羽深綾子様、匿名希望様、山田木末様、金子様、森永満子様、中村徹様、横田計佐様、山岸咲枝様、小川恵美様、飯島ひろ之様、加藤真理子様、高橋真行様、岩渕強様、横井和之様、横井公子様、大畑元子様、大坊千代子様、大坊昌子様、吉野文雄様、佐藤宗ノ子、笹井美奈子様。

れに頑張っておられることと思います。ふるさとネットも三宅島の方々、沢山の協力者の皆さまに支えられて発足から4年間の幅が広がってまいりました。昨年も多く皆さまに応援していただき感謝しております。本年も微力ながら頑張っていきたいと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。

高濃度地区に住居がある方へのアンケート

(有効回答 在京8世帯 在島26世帯)

1. 村の対応

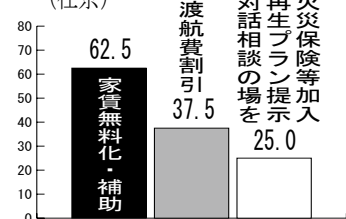
	十分	不十分	どちらとも
在京	25.0	37.5	37.5
在島	11.5	88.5	

2. 「ガス条例」による立ち入り制限様子を見る

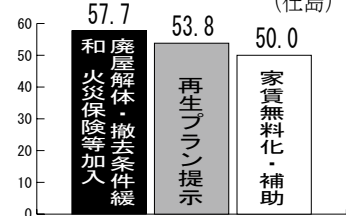
	必要	即時撤廃	その他
在京	25.0	37.5	25.0 12.5
在島	31.4	40.0	17.2

5.7 5.7 居住禁止・制限廃止

3. 高濃度地区住民に対する救済策 (在京)



4. 高濃度地区住民に対する救済策 (在島)



※2の数値は全回答数に対する各回答の割合 単位%

深刻な高濃度地区問題 条例撤廃等 望む声多く

この面では、高濃度地区に住居がある方からの行政への要望と、高濃度地区の問題についての回答を中心にお知らせします。

坪田の高濃度地区



高濃度地区に住居のある方の回答を、三宅島内と三宅島外それぞれ分けて記載します。

○年齢・性別・職業・居住地

・在島高濃度地区島民26世帯
約7割が60歳以上で、約9割が男性です。現在、4割弱が無職で、4分の1強が自営業です。避難前に坪田高濃度地区に住

・在京高濃度地区島民8世帯
9割弱が70歳以上で、すべて男性です。現在、9割弱が無職です。避難前の居住地は、坪田高濃度地区に居住していた世帯が7割強、阿古高濃度地区が1世帯です。現在の居住地は、回答世帯の全てが島外です。

○行政に望むこと
・在島高濃度地区島民26世帯
行政に望むことについては、「高濃度地区住宅の補修や再建への補助」と「高濃度地区の廃止」と回答した世帯がそれぞれ約7割、「家賃の減免

や補助」が約4割、「健康保険や年金などの保険料の減免や補助」が4割弱、「電気・ガス・上下水道などの基本料金の減免や補助」が2割強、「税の減免」が約2割です。

・在京高濃度地区島民8世帯
「高濃度地区住宅の補修や再建への補助」と「高濃度地区の廃止」と回答した世帯がそれぞれ5割、「家賃の減免や補助」と「健康保険や年金などの保険料の減免や補助」がそれぞれ4割弱、「生活費に対する支援」と「在京家族の三宅島への渡航費用の補助」がそれぞれ4分の1です。

○高濃度地区問題 ・在島高濃度地区島民26世帯

村の対応については、不十分であると回答した世帯が9割弱です。「ガス条例」による立ち入り制限については、対策を行った上で制限をなくすべきと回答した世帯が約5割、即時撤廃すべきが高濃度地区住民に

る救済策については、「廃屋などの解体、撤去条件の緩和」と「火災保険等の加入」と回答した世帯が6割弱、「地域再生プランを示せ」が約5割、「村営・都営(住宅)の無料化、家賃等の補助金の支給」が約6割、「未帰島者の渡航費割引」が4割弱、「火災保険等の加入」と「地域再生プランを示せ」と「村は対話・相談の場をつくれ」と回答した世帯が4分の1です。

村の対応については、「不十分である」と「どちらとも言えない」と回答した世帯が、それぞれ4割弱です。「ガス条例」による立ち入り制限については、「即時撤廃すべき」が4割弱、「条例は必要だ」と「危険なのでしばらく様子を見るべきだ」が、それぞれ4分の1です。

・在京高濃度地区島民8世帯

高濃度地区住民に対する救済策については、「村営・都営(住宅)の無料化、家賃等の補助金の支給」が約6割、「未帰島者の渡航費割引」が4割弱、「火災保険等の加入」と「地域再生プランを示せ」と「村は対話・相談の場をつくれ」と回答した世帯が4分の1です。

る救済策については、「廃屋などの解体、撤去条件の緩和」と「火災保険等の加入」と回答した世帯が6割弱、「地域再生プランを示せ」が約5割、「村営・都営(住宅)の無料化、家賃等の補助金の支給」が約6割、「未帰島者の渡航費割引」が4割弱、「火災保険等の加入」と「地域再生プランを示せ」と「村は対話・相談の場をつくれ」と回答した世帯が4分の1です。

お便り ✉

伝わる望郷の思い

11月15日の会合に出席できず、残念でした。

私は坪田高濃度地区の一員として、今まだ都の住宅にお世話になっております。9月10月、2ヵ月高濃度地区の一時滞在が認められましたが行きませんでした。2ヵ月のために、莫大な費用を掛ける事はできません。

10月5日、久々に娘と島に飛行機で行って参りました。青々とした空、又空気の良さおもわず腹いっぱい深呼吸しました。ガスは何処にと自分の気持ちをうたがいました。都会では味わえない良さです。1日も早く解除して島の我が家で住みたいです。

今ガスは風の向きによっては安全です。高濃度地区の人達もガスのない日は自宅で住めるように認めてほしいです。

三宅島ふるさと再生ネットワーク皆様には在京島民のため今後も活躍をお願い致します。

(品川区 玉城長之助様・タケ様)

その他、島民の方や、協力者の方々からたくさんのお便りが届きました。HPで紹介します。

チャリティーイベント がんばれ三宅島

賑やかに舞踊やバンド演奏

佐藤会長 干川教授の講演も



拍手に応じてカーテンコール



鶴吉さんの艶やかな舞踊に感動



主催したD.I. スマイルと鶴吉プロダクションからの義援金贈呈

舞踊家の鶴吉さんが主催する「チャリティーイベント がんばれ三宅島」が、11月15日に大田区民アトリコ小ホールで行われた。会場は満席となり、来場者に島の現状を知ってもらう機会になったようだ。

「チャリティーイベント がんばれ三宅島」は、よさこいソーランチーム孔雀連の南中ソーラン踊り、で賑やかに始まった。その後は鶴吉さんの日本舞踊をはじめ、手話ダンスやバンド演奏など、総勢60人を上回る出演者の華やかな舞台が繰り広げられた。

た。訪れた170人は満足そうな様子だった。イベントの中盤には「三宅島の復興課題」と題し、ふるさとネットの佐藤就之会長と干川剛史大妻女子大学教授による講演が行われ三宅島の現状が伝えられた。また、阪神淡路大震災での被災体験を語り継ぐ活動をしている女優の京町さんも応援に訪れ、「被災者の心の傷は共通、共に頑張

舞台終えた鶴吉さんより 230人に伝わった現状

皆さんの協力で、今回の企画は大成功でした。

三宅島の現状を、来場・出演者含め230人の人に知っていただけたと思います。一人が三人に話してくださったら、700人がこのことを知ってくれることになります。

まだ1回目ですが、これからです。これからもこのようなイベントを開いていきたいと思っています。

「チャリティーイベント がんばれ三宅島」を舞ったのち、最後は出演者全員が「Wayの流れる中舞台上がり、約3時間のスティージは幕を閉じた。なお、このイベントでは総額16万円3千958円の寄付金が寄せられた。この寄付金は在京者宅訪問の交通費などに使われるほか、3万円が三宅村社会福祉協議会に寄付された。

編集後記

三宅島新報の発行は今年で4年目になります。今までにたくさんの方々から取材の協力や応援をしていただき、感謝しています。これからも三宅島の方々の声を集める紙面に反映できるように、みんなで頑張ってください。動を行っていきたく思います。(DTPA一同)

新報に関する意見を事務局までお寄せください。

この新聞は、神奈川県私立向上高等学校の新聞委員と委員会の卒業生の有志がつくる「DTPA」が編集作業を担当し、大妻女子大学人間関係学部干川研究室が印刷に協力しています。